

2 番目の習慣「目的を持って始める」

『第一の習慣 主体性を発揮する』では、自分の人生は自分で選ぶことができること、自分で車のハンドルを握り自分で運転することができること、つまり、選択と責任の習慣について学びました。

しかし、自分でハンドルを握り、アクセルを踏むことができたとしても、そもそもあなたはどこに行くのでしょうか。山ですか、川ですか、それとも海ですか。それとも気の向くままに当てもななくさまよいますか。

自分で運転することを学んだあなたが次にすべきことは何でしょうか。

1865年にイギリスでルイス・キャロルが発表した『不思議の国のアリス』の中に次のような一節があります。

「教えてくださいな。私はこれからどっちのほうに歩いていけばいいの？」

「それはお前がどこに行きたいかによるな」猫はいいました。

「私はどこだって構わないのだけど」アリスはいいました。

「ならどっちのほうに歩いたって同じじゃないか」猫はいいました。

これを読んで、どう思われましたか？ アリスには自分が進むべき方向を決めることができません。そもそも、最終的にいきたいところが決まっていないのですから、選びようもないわけです。せっかく自分の足で望むように歩けるにもかかわらず、向かう方向がわからないというのは、何とももったいないことだと思いませんか？

- ・ 主体性を発揮する習慣を学んだあなたが、次に学んでみたい習慣（スキル・能力・知識）は何でしょうか？

.....

.....

.....

- ・ 他人に流されたり、環境に振り回されたりしない自分になるために、必要なものは何だと思えますか？

.....

.....

.....

- ・ 今日のあなたの行動の先にあるもの、それを何のために行ったかをはっきり言葉で表現することができますか？

.....

.....

.....

今、あなたが上に書いた内容について、どう考え、何を行えばいいかを、これから本書で学んでいきます。まず「7つの習慣」について簡単に振り返っておきましょう。

ポイント

出たとこ勝負、行き当たりばったりで、その時々課題をこなすという生き方もあるかもしれませんが、しかし、それでは周囲や他人に振り回されるだけの人生になりかねません。自分が決めた目的を達成してこそ心からの充足感が得られるのではないのでしょうか。

【記入例】
どんな状況になってもブレない原則を身につける。

【記入例】
揺るぎない信念を持つ。

【記入例】
上司からの指摘に反発するのではなく、言い分をよく聞く。一緒に創造的な仕事をしていくための最初の一歩だと考えている。

力は肉体的能力から来るものではない、それは不屈の意志から湧き出るものだ。

— マハトマ・ガンジー

「7つの習慣」とは①

『「7つの習慣」セルフ・スタディ・ブック』シリーズでは、既刊の「基礎編」と「第一の習慣」、今回の「第二の習慣」の他に、「第三の習慣」から「第七の習慣」を1つずつに分けて紹介しています。これらを着実に身につけることで、ビジネスの成果を得るだけでなく、有意義な人生を送ることを目的としています。

ここでは、今後身につけていくことになる「7つの習慣」を簡単にご紹介しましょう。

第一の習慣から第三の習慣は、あなたが自立するための習慣です。「自分の人生を自分でコントロールする」ために、「セルフ・リーダーシップ」について学びます。

自立は当然と考えているかもしれませんが、あなたは本当に自立しているのでしょうか？ ビジネスで成果が上がらなかったり、人間関係で悩んでいるとしたら、真の自立ができていないことに原因があるのかもしれません。

スキルやテクニックを覚えるより、真の自立とは何かを考えたほうが、きっと成果を得ることができるようになるはずです。自立するためには、次の3つの習慣を身につけなければなりません。

・第一の習慣 — 主体性を発揮する

自分に降りかかる周りの環境からの刺激に対する反応や行動は、すべて自分自身が選択することができること。そしてそれらについてあなたが責任を負わなくてはならないことを学びます。「問題が自分の外にあると考えるならば、その考えこそが問題である」とコヴィー博士は述べています。

あなたはどんな人で、どんな価値観を持ち、何を信念としているか — それがあなたの錨であり、北極星である。そういうことは本で学べるものではない。自分自身の精神の中に見つけ出すものなのだ。

・ アン・マルケイヒー
(ゼロックス社 会長
兼 CEO)

・第二の習慣 — 目的を持って始める

あなたが何を大切に、どういったことを達成したいのか。それを考え抜き、ハッキリさせてから行動するという習慣を身につけます。あなたのすべての行動にコミットメントと理由が付随するようになりますから、やる気に満ち溢れ、やりがいを感じる事ができるでしょう。

・第三の習慣 — 重要事項を優先する

会社から与えられた膨大なタスクに加え、父親や母親、恋人、テニススクールの一員など、さまざまな役割を担っているあなたは、仕事以外にもすべきことが多いはず。そうした多くの役目をどうすればこなせるのでしょうか。やるべきことをきちんと実行するために、重要事項を優先することを学びます。

ポイント

セルフ・リーダーシップとは、個人個人が自らの方向をしっかりと定め、自らの意志の下、その状況において正しい判断を行い、主体的に行動すること。そのためには、第一の習慣、第二の習慣、第三の習慣を身につけなければなりません。

「7つの習慣」とは②

第四の習慣から第六の習慣は、人間関係におけるリーダーシップを学びます。

自立が人生のゴールではありません。社会で豊かな人生を送るためには、周囲の人々との相乗効果を発揮することによって、相互依存関係を築き上げることが必要なのです。

そして、現状に満足することなく、自分自身を再新再生し続ける努力を行うのが、第七の習慣です。

・第四の習慣 — Win-Win を考える

コンペや社内の覇権争い。あなたの周りでは数多くの競争が行われていることでしょう。確かに負けるわけにはいきません。しかし、あなたには後ろめたい気持ちがありませんか？ それはあなたが、相手に勝つことは相手を蹴落とすことだと思っているからです。共に満足できる、双方が勝者になるという考えを学びます。

・第五の習慣 — 理解してから理解される

傾聴することの大切さを学びます。胸に手を当てて考えてみましょう。あなたは相手が話し終える前に、話し始めていませんか？ それでは相手はなかなか理解されたと感じられないかもしれません。どうすれば相手を理解することができるのか、傾聴のスキルと態度を学び、また相手を理解することで、より自分も理解されることを学びます。

お互いにとって幸福な世の中をつくるためでないとしたら、我々は何のために生きているのか。

— ジョージ・エリオット

・第六の習慣 — 相乗効果を発揮する

会議で他の参加者との意見が違ったとき、あなたはどうか対応しますか？ ここでは、あなたの意見と相手の意見を活かし、1 + 1 を3以上にする方法を学びます。異なる考えがぶつかって新たに生まれる案は妥協案ではなく、相手と自分の長所を活かした第三案なのです。さまざまな個性の強みを活かして、さらなる成果を生みましょう。

・第七の習慣 — 刃を研ぐ

あるところで、1人のきこりが休むことなくがむしゃらに木を切り続け、もう1人は1時間に1回の休憩をとってのこぎりの刃を研いでいたそうです。どちらが早く切り終えたかは、おわかりでしょう。人生において、刃を研ぐ、すなわち自分を磨くことの大切さと、それによって得られるであろう効果について学びます。

ポイント

人間関係におけるリーダーシップとは、お互いのニーズを深く理解し、周囲のメンバーの個性を活かし、協力して一人では成しえなかった成果をあげることです。そのためには、セルフ・リーダーシップに加えて、第四の習慣、第五の習慣、第六の習慣を身につけなければなりません。

自立するための2番目の習慣

「7つの習慣」はバラバラの習慣を7つにまとめたものではありません。私たちを取り巻く原則に基づいた、生活や人間性を向上させる連続性のあるアプローチです。「7つの習慣」を身につけることにより、「依存」から「自立」、そして最終的には、周囲の人たちと協力して自分1人では到底成し遂げることのできないような成果を生み出す「相互依存」状態に至るプロセスを歩むのです。

「7つの習慣」成長の連続体



生きる目的を持つ者は、まずどんな生き方にも耐えられる。

— フリードリッヒ・ニーチェ

「7つの習慣」がプロセスであるというのは、習慣には学ぶ順序があること、つまり、ある習慣を实践して初めて次の習慣が生きてくる場合があることを意味しています。

たとえば、この第二の習慣で紹介する「目的を持って始める」を实践しようとして、「○○○がやりたい」「○○○になってみたい」思っているとします。しかし、あなたには「できる」という自信もなければ、強い意志もありません。また、それほど強い必要性を感じていないため、何があっても成し遂げようという責任感も生じません。

このような状態で漠然と夢を持ったところで、それはただの願望に過ぎず、実現に向けて進むのは難しいでしょう。

また、第三の習慣である「毎日を計画的に、重要なことをやりたい」と思ったところで、そもそも何が自分にとって大切で重要なかわかっていないと、計画し実行したところで、本当の満足感を得ることはないでしょう。

第一の習慣で、選択することと責任の必要性を自覚したあなただからこそ、この第二の習慣に進むことができるのです。

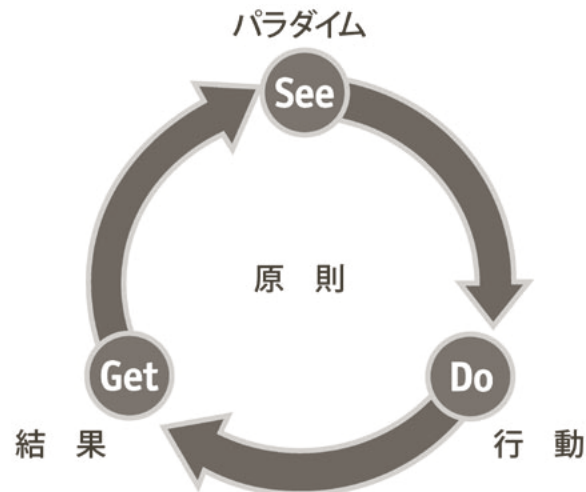
第二の習慣は、あなたの自立においてとても重要な習慣です。この習慣で、あなたの進むべき方向、目指すべき場所を明確にイメージすることになるからです。コヴィー博士もこの第二の習慣の重要性を説いています。

さあ、あなたの進むべき方向はどちらになるでしょうか。一緒に考えていきましょう。

第二の習慣で得ること

第二の習慣「目的を持って始める」によって何をできるのでしょうか。本書のシリーズ『基礎編 インサイド・アウトのパラダイム』で、パラダイムが変わることによって得る結果が大きく変わることをご紹介しましたが、ここでも、第二の習慣のパラダイムを持つことで、得る結果も大きく変わってきます。

「7つの習慣」では、パラダイムを変えることで得る結果がどのように変わるかを、以下の「See-Do-Get」モデルとしてご紹介しています。



このように、私たちがものごとをどう見るかによって、行動が変わり、その行動によって得る結果も変わってきます。では、第二の習慣のパラダイムとはどのようなものなのでしょうか。

まず、第二の習慣とは全く逆のパラダイムを紹介します。

それは、「私は行き当たりばったりの計画性のない人生を自由気ままに生きる」というものです。それに対し、第二の習慣を実践する人のパラダイムは、「私は目的を持ち、自ら設計した人生を送る」というものです。

では、このようなパラダイムを持つ人はどのような行動を行い、どのような結果になるのかを考えてみましょう。

・「私は行き当たりばったりの計画性のない人生を生きる」というパラダイムを持つ人の行動は？

.....

・そういった行動を続けた場合の結果は？

.....

・「私は目的を持ち、自ら設計した人生を送る」というパラダイムを持つ人の行動は？

.....

・そういった行動を続けた場合の結果は？

.....

【記入例】
進むべき方向がないので、気分や状況に応じて行き先を変更する。

【記入例】
他人の意向に左右された挙げ句、望ましくないゴールに流れ着く。

【記入例】
紆余曲折はあっても、一つひとつ確実に必要な行動をとり、実績を積み上げていく。

【記入例】
いずれは目的を達成し、充実感と達成感を得られる。

勝利も敗北もない灰色の黄昏時のような生き方をして、楽しみも苦しみもさほどない気概に欠ける者たちと肩を並べるよりも、たとえ浮沈を経験することになろうと、困難に敗れて挑み輝かしい勝利を手にするほうがはるかにましである。

— セオドア・ルーズベルト

今の自分は本当に幸せか？

人の幸せや満足感は、人それぞれ異なります。ある人にとっては会社の役員になることが幸せであっても、他の人はそうではありません。「自分にとって本当の幸せとは何か」ということを、自分自身で定義することなく過ごしていると、周りの状況や置かれた立場に影響されやすくなり、他人の成功のモノサシで自分の成功を測ってしまう危険性があります。

あなたの成功は、あなた自身が定義しなければなりません。次のストーリーを読んでみてください。表面的には誰からも尊敬されるような成功を収めているように見えても、本人の心の声は違うことを言っていることがあるのです。

私はある若者とレストラン「エル・パソ」で一緒に食事をしていました。彼はわが社に勤めて5年ほどで大きな家に住み、表玄関のすぐ側には駐車スペースがあり、玄関には高価な表札を下げられるほどリッチな生活をしていました。ランチを食べながら、成功とは何かについて語り始めました。私がミッション・ステートメントについて触れると、彼はそういう考え方は聞いたことがないといいました。

ミッション・ステートメントの作成方法を彼に説明しようと、私は彼にとって何が重要かを聞いてみました。彼は自分がやりたいことを次々に並べ立て始めました。しかし、そのどれもが彼の仕事には関係のないことでした。

私は不思議に思って、「ねえ、君は幸せかい？」と聞くと、彼は口をつぐんでしまいました。

「ああ、幸せじゃないよ」彼はそういいました。

「でも君は成功した、そうだね？」私がそう言うと、彼は力なく笑い、そのまま考え込んでしまいました。

『「7つの習慣」実践ストーリー1』より

信じるものがあっても、それを実践しなければ、それは不正直である。

— マハトマ・ガンジー

- あなたのこれまでの経験において、このような思いや感覚を持ったことはありますか？

.....
.....

- それはどんなときで、どんなことに気がつきましたか？

.....
.....

- 今、あなたが目指しているものは何ですか？

.....
.....

- 上記の成功によって、心からの充足感と幸福感を感じることができると思いますか？

.....
.....

- あなたにとっての成功とは何でしょうか？

.....
.....

ポイント

私たちは無意識のうちに、他人の定義する成功があたかも自分にとっての成功であるように考えがちです。本当にそうなのでしょう。あなた自身の成功、幸せとは何か、じっくり考えてみましょう。

【記入例】
しばしばある。

【記入例】
上司の指示に従うことで一定の成果は出せたが、自分としては納得のいく内容ではなかった。評価されても喜べないこともあるのだと思った。

【記入例】
会社でNo.1の営業成績を上げること。

【記入例】
ビジネス・パーソンとしては間違いなく充足感を得られると思うが、家族と過ごす時間が少なくなるので本当に幸せとはいえないと思う。

【記入例】
仕事でもプライベートでも満足できる状態を維持すること。